

ホップ ステップ ジャンプ

石越町JUMP愛好会（宮城県登米市・29人）

「楽しく跳ぶこと」を大事に

身長の2倍ほどの高さまで跳び、後ろへ回転してうつぶせの姿勢で落ちる。「4分の3レイアウトバック」という技だ。トランポリンは軽々跳んでいるように見えて、安定してまっすぐ上に跳ぶ動きにすら半年の練習が必要だ。

愛好会では、バッジテストと呼ばれる5段階の昇級試験の合格をめざす子どもたちと、競技部門の子どもたちが練習している。競技は跳躍面の約1段と2段で囲われた範囲から出ないように、10種の

技を跳んで美しさを競う。わずか17秒ほどの間に点数が決まる。

指導する佐藤隆さん(54)が大事にするのは「楽しく跳ぶこと」。楽しさがなければ、高く跳ぶ怖さに負けてしまう。小学1年生からトランポリンを始めた6年生の齋藤綾さん(11)は、14日に行われた東北大会の中級クラスで優勝した。「回転するときは気持ちがいし、技が決まるとうれしい。今は2回転宙返りが目標」と話した。

(神原織和)



石越町JUMP愛好会で練習する子どもたち＝登米市

1986年に設立。小学生12人、中学生4人、高校生2人と、大人も11人が通う。登米市の石越体育センターで、毎週水曜日と土曜日の午後7時半から9時半に練習している。出張教室やオープン教室も開催している。